はなやま

公益社団法人
宮城県芸術協会
（郵便番号　980-0802）
仙台市青葉区二日町16-1
二日町東急ビル5-B
電　話　（022）261－7055
ＦＡＸ　（022）214－5184
E-mail:miyagi-geikyo@sunny.ocn.ne.jp
発行者　吉　田　利　弘

題号の背後にある芸協のシンボルマーク「雲」は、様々な分野の芸術家達がふんわり集まり、巻雲のように盛り上がって纏まった姿を表す。創設当初の理事安倍郁二氏によるデザイン。

5項目で見直し検討
刷新会議、改革案を策定
理事会等を経て総会で説明へ

取り巻く環境が厳しさを増す中で、当協会の発展と継続性を高める実践可能な取り組みを探る「持続可能な協会運営のための検討会議（通称・刷新会議）」が、5項目の検討項目と実現ベースの改革案をまとめた。理事会、部長会議に内容を示し、了承を得た。6月1日の令和7年度定時総会でも報告し、会員らに周知の徹底を図りつつ、退会会員に対する賛助会員への勧誘を手始めに具体化を図る。

当協会は、会員の減少に歯止めがかからず、決算は概ね赤字続き。刷新会議（座長・吉田利弘理事長）は、月1回のペースで招集し、打開策の協議を重ねてきた。

その結果、①会員確保策の工夫②賛助会員募集手法の拡充③退会者の賛助会員への勧誘④協会認知と会員募集の広報の推進⑤事務局運営の見直し―の検討に付すべき5項目を決定。取り組み事例を明示した。

会員確保策と退会に向かう会員への目配りについては、入会の条件緩和、会費に勝る入会価値のアピール、その関連での「部会（仮称）」の創設・運用開始、高齢会員の継続環境の整備―の具体例を提示。新入会員の勧誘に当たっては、育成の視点も重視し、幅広い分野で構成する協会の魅力の顕在化を図る交流研修会の創設も掲げた。高齢会員がより参加しやすい、つまりは退会の回避に向けて、作品の小型化や旧作の出品の容認検討も盛り込んだ。

刷新会議

効果的な広報については、各部の協力を得ながら、協会の特長を分かりやすくまとめた入会案内のパンフレット・チラシを作製し、関連団体やグループ、文化施設等に配布。入会を呼び掛けるとした。

賛助会員の獲得は、「オール芸協」で取り組む機運の醸成を強調。部の役員らに新規に作成するパンフレットと入会申込書を配り、入会の促進を図る。魅力向上策として、特典創設の検討を掲げ、作品の貸与や社内行事・研修への講師派遣、周年記念事業への協力もうたい、既存会員の賛同を得つつチラシ等への具体例の盛り込みも検討する。形を変えた支援継続を趣旨とする退会会員の賛助会員への誘導も、有効策の一つに位置付けた。

事務局運営での検討方向としては、効果的な通信の在り方や事務局員の負担軽減に向けた各部による会議、事業運営の一層の工夫が示された。

協議結果については、理事会（1、3月）や実践の起点となる部長会議（1月）に報告・説明。手順を踏んだ慎重な進行で、了解を得ている。

全般的な実施工程等の確定はこれから。定時総会の席上、概要を報告し、周知を尽くした上で、実施の難易度と緊急度等を勘案しながら、詳細を固めて工程表に落とし込んでいく。ただ、退会会員の賛助会員への勧誘や賛助会員に対する特典の紹介を添えた継続の要請等は、先行実施を確認している。

協会の使命の再確認と実践への覚悟が問われている。検証を伴いつつ、協会挙げて取り組まなければ成果は危うい。緊密なコミュニケーションの下、会員らの決まったことへの協力と積極参加が期待される。

6月1日に定時総会「記念講演会」も復活

令和7年度定時総会が6月1日午後2時10分から、せんだいメディアテーク7階スタジオシアターで開かれる。なじみの会場を変更しての開催で、総会に先立つ恒例の「記念講演会」も3年ぶりに復活する。

総会は令和7年度の事業計画及び収支予算の報告と、議案の6年度事業報告及び収支決算の審議が主な次第となる。事業計画及び収支予算は理事会の議決事項で決定済みだが、従来の活動を踏襲しつつ、厳しい環境に鑑みて、効率運営の徹底を図った内容。支出を抑制し、展示部門で収支均衡に向けた会員負担金引き上げも盛り込んだ。

今回は、組織、事業等の在り方を検証し、見直しに踏み出すべく昨年9月に設置した刷新会議の検討状況も時間を割いて報告。「オール芸協」で取り組むことを申し合わせる予定だ。

事業計画、収支予算決まる
増額補正案、理事会で可決
手続き踏み負担金引き上げ

令和7度第1回理事会が4月22日、協会会議室で開かれ、会員負担金の引き上げを盛り込み増額補正した本年度の収支予算（案）を原案通り可決、承認した。関連する部門から唐突感が示され、3月17日の6年度第5回理事会でいったん据え置いた収支予算を議決。4月4日に関連部門の部長会議を開き、理解を深める慎重な手続きを経て、補正した収支予算の承認を得た。

各事業収支の状況等を踏まえて負担金が改定されるのは、展示系の絵画、彫刻、工芸、書道、写真の5部門で、4千円から6千円になる。収入源の会員減少や物価高騰等に伴って財務状況は厳しさを増しており、今後、公募・参加費とともに他部門の負担金改定も想定される。

第5回理事会で、執行理事らが職務の執行状況など3件を報告し、7年度事業計画（案）及び収支予算（案）、名誉会員の推薦、正会員の入会、賛助会員の推薦、7年度定時総会の開催―についての5議案を審議、いずれも原案通り可決、承認した。

事業計画の冒頭部分に、理事会に創設した「持続可能な協会運営のための検討会議（刷新会議）」の協議で打ち出された取り組み方針への対応を明記し、厳しい環境に即した創意工夫の必要性も強調した。

当初、負担金の改定を棚上げし、収支予算（案）が異例の赤字予算となったのは、会員に丁寧に周知を図る必要があり、事業計画、収支予算の県への提出期限も3月末に迫っていたため。後日、関連する部長らに背景・要因を説明、十分な理解を得た上で、4月以降、補正予算（案）をまとめ、改めて理事会に諮る形で了承を得た経緯がある。

宮澤寒山氏、名誉会員に

令和6年度第5回理事会で、邦楽部（三曲）所属の参事、宮澤寒山氏の名誉会員への推薦が承認された。宮澤氏本人から承諾が得られたため、4月1日付で名誉会員となった。

宮城県芸術祭をはじめ、諸事業の安定した継続的な運営に向けて、収支の均衡は不可欠。組織の体力に見合った事業計画を考えるとともに、自己負担を含めて経費の工面にも知恵を尽くす緊要性が高まっている。

宮澤氏は、平成25～28年に理事。退いて以降は参事として協会及び邦楽部の発展に尽力してきた。公益社団法人移行前後の変化の大きい時期の協会運営にも深く関わり、歩みを支えた。

今回の推薦は、法人運営規程第7条、参事の職にあり、満85歳に達し、理事会から推薦された会員を名誉会員にすることができるとする規程に基づく。

講師は須佐尚康氏
定時総会恒例の記念講演会

令和7年度定時総会に先立って、6月1日にせんだいメディアテークで開かれる記念講演会は彫刻部会員で東洋ワークグループ会長の須佐尚康氏が講師を務める。講演は午後1時から1時間、演題は「創業者として、彫刻家として－経営と芸術が築く共生社会－」で、期待が膨らむ。

須佐氏は1948年、福島県金山町生まれ。日大工学部卒。現在、人材派遣を核とする同グループ会長。国内8社、国外2社で事業展開中だ。彫刻家としても精力的に創作に励み、河北美術展（彫刻）で河北賞を2度受賞、さらに二科展入賞の実績を誇る。芸術世界展の開催など長年、障がい者アートの支援活動にも尽力。多方面の活躍ぶりで知られる。

マルチ人間の須佐氏が、会社経営や芸術活動などを通じた豊かな人生経験と濃密な社会との関わりを踏まえ、会員が関心を寄せる芸術との向き合い方などを情熱的に問い掛ける。芸術観のブラッシュアップなど、今後の創作活動に刺激を得る絶好の機会となるに違いない。

記念講演会は定時総会時の恒例行事だが、60周年記念式典における講演会との重複等を勘案し、開催が見送られてきており、3年ぶりの復活となる。

事業・決算「適正」と認定
監事会、持続可能へ要望も

令和6年度の事業運営及び決算について監査する監事会が4月14日、協会会議室で開かれた。大槻俊之、佐藤光郎両監事が事業報告や重要な決済書類を閲覧し、必要に応じて事務局の担当者に説明を求めて監査業務を遂行し、「適正」と認定した。22日の理事会で報告。6月1日の定時総会でも改めて示す。

監査報告では、その他として本年度設置した「持続可能な協会運営のための検討会議（通称・刷新会議）」に言及。協議で固まった成果について、会員への周知徹底を図りつつ、できるところから具体的に生かしていくよう要望した。7年度収支予算の補正についても言及した。

監査後、両監事は吉田利弘理事長や執行理事4名と意見交換。厳しい財務の現状を全ての会員が認識し、協会の未来に向けて幅広く議論を進め結束し取り組んでいくことを申し合わせた。

芸術祭長唄演奏会
伝統芸能、情感豊かに

第61回宮城県芸術祭の長唄演奏会が令和6年11月17日、トークネットホール仙台小ホールで開かれた。慣れ親しんだ会場でのステージ。三味線と唄が、情感たっぷりに響いた。

舞台をいっぱいに使った大人数による合同曲『鶴亀』で開幕。三味線文化譜宗家・六世家元の杵家弥七さんによる講話、「三味線で描く江戸の四季」を演題とした特別企画をはさみ、『巽八景』『娘七種』『俄獅子』の4曲を演奏した。

伝統芸能の長唄を体感する貴重な機会だけに、入場した約130人は神経を集中させて鑑賞。屋外の喧騒を離れ、明治以前の代表的な古典が醸し出す江戸情緒を満喫した。

芸術祭長唄演奏会

コンクール拡大開催
新設2部門、成果と課題

第45回音楽コンクールが2～3月、日立システムズホール仙台で、チェロ（弦楽部門に併設）、声楽の2部門を新設し、ピアノ、弦楽（ヴァイオリン）部門を含め、4部門で開催された。注目のチェロは2月9日、ヴァイオリンと同時開催。本選のみで行われた。未就学児からシニア層まで5クラス、26名が参加した。期待の人数には届かなかったものの、初回としてまずまずの実績。年齢幅が広く、裾野の拡大に貢献した。

声楽は応募の受付を延長して7クラス、86名まで漕ぎつけた。参加者の技量が不透明な上、滑り出しが低調で心配されたが、実施に向けた関係者の精力的な呼び掛けで目標をクリアした。

共に次世代育成や関心の広がりという点で、取り組みは意義深い。ただ、次回以降の安定開催を念頭に、参加者数の維持・確保に努めることの重要性も鮮明になった。

音楽コンクールの軸となるピアノは6クラス、100名、ヴァイオリンは6クラス、58名にとどまり、参加者が幾分減少した。子どもの数が減少傾向を強めており、歴史あるコンクールの継続開催に向けて、今後、運営の在り方を幅広く点検する必要がありそうだ。

芸術祭音楽コンクール・声楽

音楽コンクールを広報
弦楽部門、初のコンサート

音楽コンクール（弦楽部門）の広報活動として、初のデモンストレーションの演奏会「集まれ！弦楽の響きコンサート」が1月13日、東北電力グリーンプラザ・アクアホールで開かれた。弦楽部門実行委員会の主催。同部門に新たにチェロが加わり、声楽も創設されたことから、周知徹底を図る目的で企画した。

演奏プログラムは、コンクール課題曲を含め8曲。アンコールの2曲も響かせた。ホールは満席御礼。無料にも支えられ、200人近くが詰め掛け、椅子を追加しても立ち見が出た。

地方放送局が取材、ローカルニュース枠で紹介された。「素晴らしい」「ぜひ継続して」といった感想も聞かれ、コンクールの広報効果は大きかった。事業の継続に向けた自主的な取り組みとして特筆される。

新入会員42名を承認
組織活性化へ、新風期待

令和7年度の新入会員が理事会（3、4月）で承認された。協会に新風を吹き込む「同士」は8つの部の42名。内訳は絵画部12名、彫刻部1名、書道部12名、華道部7名、洋楽部1名、邦楽部2名、文芸部4名、写真部3名。公募展などにおける実績が評価され、各部から会員に推薦された。

令和7年度新入正会員名簿

部　門	氏　名（本　名）	住　所
【絵画部】		
〈日本画〉	黒　政　真　理	仙台市青葉区
〈洋　画〉	阿　部　貴　志	仙台市若林区
〈洋　画〉	北　田　ちよえ	仙台市泉区
〈洋　画〉	齋　藤　勝　志	仙台市青葉区
〈洋　画〉	齋　藤　健　一	仙台市宮城野区
〈洋　画〉	佐々木　勝　子	大崎市
〈洋　画〉	佐々木　裕美子	仙台市太白区
〈洋　画〉	菅　原　美　恵	仙台市泉区
〈洋　画〉	鈴　木　三千彌	仙台市泉区
〈洋　画〉	只　野　京　子	仙台市泉区
〈洋　画〉	箱　崎　宏　子	岩沼市
〈洋　画〉	湯　浅　未千代（みちよ）	仙台市泉区
【彫刻部】		
	本　川　東洋子（畠山東洋子）	亘理郡山元町
【書道部】		
	相　原　則　子	仙台市宮城野区
	五十嵐　　梢	仙台市泉区
	泉　　静　香（律子）	仙台市青葉区
	片　桐　暢　象（園子）	仙台市青葉区
	菊　田　昌　園（順子）	仙台市青葉区
	紺　野　遊　山（浩）	大崎市
	酒　井　雅　代	栗原市
	高　橋　奎　媛（彩絵）	遠田郡美里町
	高　橋　如　雲（律子）	仙台市青葉区
	田部井　恵　楓（恵子）	仙台市若林区
	林　　藤　華（幸子）	仙台市宮城野区
	吉　田　恵　弦（恵也）	仙台市宮城野区
【華道部】		
〈池　坊〉	宮　崎　俊　翠（房代）	仙台市青葉区
〈草月流〉	井　上　　依（依子）	名取市
〈草月流〉	岸　本　光　聖（直子）	仙台市青葉区
〈草月流〉	澤　口　螢　緑（貴美江）	石巻市
〈草月流〉	永　山　煌　恵（由紀恵）	多賀城市
〈草月流〉	蜂　屋　実　陽（由美）	宮城郡松島町
〈道風流〉	河　野　華　松（正）	仙台市若林区
【洋楽部】		
	宮　堀　諒　美	仙台市泉区
【邦楽部】		
〈長　唄〉	杵　家　弥登操（千葉操子）	仙台市太白区
〈長　唄〉	谷　口　サヨ子	仙台市青葉区
【文芸部】		
〈俳　句〉	渡　辺　柊　子（啓子）	塩竈市
〈川　柳〉	板　橋　豊　子	仙台市宮城野区
〈川　柳〉	梅　津　良　昭	仙台市泉区
〈散文・小説〉	長谷川　登　美	仙台市青葉区
【写真部】		
	齋　　秀　哉	白石市
	佐　藤　史　朗	仙台市太白区
	八　嶋　真　子	仙台市青葉区

精進に大輪の花　会員70名に栄誉
芸術祭表彰式、あふれる祝意

第61回宮城県芸術祭の表彰式が令和6年12月3日、トークネットホール仙台で行われた。各分野で入賞した会員70名と、それぞれの部門で長年の功績が認められた11名が表彰された。会場を前年のホテルからホールに移し、授与のみの内容としたが、今回、賞状を受賞者一人一人に手渡し、祝意の思いを込めた。

表彰式は昨年にならう形で実施。受賞者や功績者のほか、協会及び部の役員と、共催、賞交付団体代表者らに出席者を限定し、約120名にとどめた。

芸術祭会長で当協会の吉田利弘理事長が冒頭のあいさつで、創立60周年の記念年に触れながら、コロナ禍以前と同等の規模で無事に芸術祭をほぼ終えられる成果を強調。共催団体の理解と協力に改めて謝意を表しつつ、受賞者の努力を称賛し、心よりの祝意を述べた。

名誉会長の村井嘉浩宮城県知事（佐藤健二県環境生活部副部長・代理代読）も、県の芸術文化の向上をけん引する協会の芸術祭開催に向けた尽力に敬意を表し、併せて受賞者の栄誉をたたえた。

賞状、副賞（楯等の記念品）の授与は、各賞ごとに実施。コロナ禍以降の定番だった代表者が受け取る方式を改め、全員がステージ上に進み、授与者から一人一人に賞状が手渡された。時間を要するが、その分、祝意が伝わると判断した。各賞の授与に続いて、功績者を表彰。教育文化功労1名、文化の日表彰3名も併せて紹介し、記念品を贈り、それぞれ大きな拍手で受賞をお祝いした。

次年度以降の表彰式については、賞状授与に要する時間や開催経費等も見定めつつ、祝宴の復活を含めて内容を慎重に検討することになる見通しだ。

芸術祭表彰式

第61回宮城県芸術祭来場者数（人）

事業名	入場者数
開会式	83
写真展・フォトサミット in Sendai 2024	1,989
絵画展（公募の部）	1,583
彫刻展・彫刻公募展	1,583
絵画展（会員展）	4,772
華道展	2,398
書道展	4,016
記念イベント「アートのちから」	380

事業名	入場者数
音楽コンクール ガラコンサート	485
茶会	1,330
文芸祭	124
工芸展	1,743
音楽会	418
長唄演奏会	133
表彰式	120

併催事業

事業名	入場者数
第５回杜のみやこ工芸展	1,743

参加事業

事業名	入場者数
第52回洋舞公演	900
第66回仙台三曲協会定期演奏会	245
歳末たすけ合い第61回名流舞踊大会	800

芸術祭受賞者作品展
新旧作品の対比に面白み

第61回宮城県芸術祭絵画展受賞者作品展が令和6年12月3～9日、東京エレクトロンホール宮城・5階展示室で開かれた。

芸術祭賞をはじめ会員展の入賞者19名と、公募の部の入賞者8名が参加。入賞作と新作1点ずつを出展し、躍進目覚ましく技量も抜群の作者の秀作、54点が会場を飾った。

受賞者ばかりだけに作品は珠玉ぞろい。芸術祭とは微妙に異なる空気感が展示空間に漂う。上質の作品群の発するインパクトは強烈で、受賞後の時間の制約もあってか、新作の多くは小ぶりながら、手掛けた作品には喜びと手応えがあふれていた。

鑑賞していた女性は「宮城の絵画の今を代表するような優れた作品が並び、その魅力にしばしまどろんでしまいました」と語っていた。

受賞者作品展

功績者表彰・名簿

◇功績者表彰を受けられた方々（敬称略）

【華道部】熊谷理憲（古流松藤会）、佐藤理智（静月流）【邦楽部】田村雅楽徽（三曲）【洋楽部】粟田口節子、北村裕子、熊井雅美【茶道部】白岩宗郁（表千家）、星宗楽（同）、千葉宗泰（江戸千家）、阿部南正（織田流煎茶道）、後木南恵（同）

伝統の響き、堂々と
こどもの邦楽コンサート

第11回こどもの邦楽コンサートが3月30日、仙台市の宮城野区文化センター・パトナホールで開かれた。仙台三曲協会が主催し、当協会が後援した。

演奏したのは、『「四季の日々」より春の日』『夏の日』『花かげ変奏曲』『昔ばなし』『三段の調』『「秋の組曲」より八雲立つ』『編曲八千代獅子』など14曲。小中高校生ら約50名が、箏や十七絃、尺八、胡弓を巧みに奏で、ホールいっぱいに和楽器の音色を響かせた。

邦楽を学ぶ子どもたちに、発表の機会を提供して、邦楽への一層の親しみとさらなる精進を促す次世代育成の趣旨を込めた事業。振袖を身に着けて臨んだ子どももおり、晴れ舞台といった趣だ。

部活動などで指導する先生や保護者らが見守る中、伝統継承の期待を担う小さな演奏家たちは、稽古場とは異なる大きなステージに緊張しつつも、堂々とした姿で時に歌唱を交えて日頃の練習の成果を存分に披露。それぞれに感動と称賛の拍手を浴びていた。

こどもの邦楽コンサート

令和７年度事業計画

（１）宮城県芸術祭の開催【公益目的事業１】

本協会を中心とし、宮城県、仙台市、河北新報社、宮城県教育委員会、仙台市教育委員会、公益財団法人宮城県文化振興財団、公益財団法人仙台市市民文化事業団の８団体共催により、本年で62回目となる宮城県芸術祭を開催する。

芸術祭開催期間は９月27日（土）の開会式（会場:せんだいメディアテーク）から、12月１日（月）の表彰式（会場:トークネットホール仙台）を経て、翌年３月29日（日）の音楽コンクール本選までの期間となる。各事業の詳細は次のとおり。

事業種別	事業名	期日	会場等
展示関係事業	華道展	９月27日（土）～９月30日（火）	せんだいメディアテーク
	書道展	９月27日（土）～９月30日（火）	せんだいメディアテーク
	写真展	10月４日（土）～10月７日（火）	せんだいメディアテーク
	彫刻展	10月４日（土）～10月７日（火）	せんだいメディアテーク
	絵画展	10月11日（土）～10月14日（火）	せんだいメディアテーク
	工芸展	11月５日（水）～11月９日（日）	東北福祉大学ギャラリーミニモリ
演奏関係事業	音楽会	10月19日（日）	日立システムズホール仙台
	長唄演奏会	10月19日（日）	トークネットホール仙台
文芸関係事業	文学散歩	10月９日（木）	宮城県・牡鹿半島方面
	「宮城県文芸年鑑」発行	10月15日（水）	500部発行
	文芸祭	10月25日（土）	東京エレクトロンホール宮城
茶会	茶会	10月12日（日）・19日（日）・26日（日）	輪王寺
人材育成事業	フォトサミット in Sendai 2025	10月４日（土）～10月７日（火）	せんだいメディアテーク
	絵画展（公募の部）	10月４日（土）～10月７日（火）	せんだいメディアテーク
	彫刻公募展	10月４日（土）～10月７日（火）	せんだいメディアテーク
	第45回音楽コンクール ガラコンサート	９月28日（日）	日立システムズホール仙台
	第46回音楽コンクール予選	ピアノ部門・弦楽部門ヴァイオリン部 ２月８日（日）	日立システムズホール仙台
	第46回音楽コンクール本選	弦楽部門チェロ部　２月８日（日）・ヴァイオリン部　３月８日（日） ピアノ部門　３月15日（日）・声楽部門　３月29日（日）	日立システムズホール仙台
	写真セミナー	未定	芸術協会事務所

※　例年と同様に仙台三曲協会定期演奏会、洋舞公演、歳末たすけ合い各流舞踊大会を芸術祭参加行事とする。

（２）芸術文化の振興に関する展覧会、講演会、研究会、発表会などの主催又は後援【公益目的事業2】

多くの県民に本協会の会員による芸術作品や音楽会などを鑑賞する機会を提供することを目的として、次のとおり各事業を実施する。

事業種別	事業名	期日	会場等
鑑賞機会提供事業	（河北新報社・東日本放送共催）第24回杜の都大茶会	５月25日（日）	杜の広場公園
	（宮城県文化振興財団共催）第62回宮城県芸術祭絵画展受賞者作品展	12月３日（水）～12月８日（月）	東京エレクトロンホール宮城
	みやぎミュージックフェスタ	未定	未定
人材育成事業	（日本舞踊協会宮城支部共催）第５回宮城県各流子ども舞踊大会	８月10日（日）	仙台銀行ホールイズミティ21
	（河北新報社共催）河北工芸展継承第６回杜のみやこ工芸展	11月５日（水）～11月９日（日）	東北福祉大学ギャラリーミニモリ
	書道部による県内小中学校の講師派遣事業	10月～１月	県内小中学校
	（宮城県文化振興財団共催）定禅寺フォトコンテスト	12月中旬	東京エレクトロンホール宮城
	（仙台三曲協会共催）子供の邦楽コンサート	未定	未定
後援事業	本年も「河北書道展」等に賞状や賞金等を提供するなど、本協会に申請のあった作品展や演奏会に対し、後援名義の承認、必要に応じた賞状や賞金等を提供する。（令和６年度承認実績：72件）		

（３）国内及び国外との芸術文化の交流【公益目的事業3】

国内外の芸術総合文化団体との相互交流を図ることを目的とし、交流協議及び事業を次のとおりに実施する。

事業種別	事業名	期日	会場等
東北・北海道芸術文化団体協議会交流事業	こどもアール・ブリュリット「WEB展覧会」	11月上旬	WEB上で公開

※東北・北海道芸術文化団体協議会交流事業：本年度担当幹事地区は北海道。

（４）会員の資質向上のための研修会等の実施及び調査研究並びに出版物の刊行など【他事業】

本協会会員や多くの県民に参加の機会を提供する研修事業と、協会の活動状況等の発信及び会員同士の情報交換を図るための発行物の刊行を次のとおりに実施する。

事業種別	事業名	期日	会場等
会員研修	講演会	６月１日（日）	せんだいメディアテーク
発行	機関誌「はなやま」発行	240号：５月、241号：未定	年２回発行

令和７年度正味財産増減予算書

（令和７年４月１日～８年３月31日）

科　目	公益目的事業会計					他事業会計	法人会計	合　計
	公1	公2	公3	共　通	小　計			
Ⅰ　一般正味財産増減の部								
1．経常増減の部								
（1）経常収益								
基本財産運用益	0	0	0	1,000	1,000	0	0	1,000
受取入会金	0	0	0	500,000	500,000	0	500,000	1,000,000
受取会費	0	0	0	10,525,000	10,525,000	1,268,685	7,256,315	19,050,000
事業収益	7,576,000	1,645,000	0	0	9,221,000	0	0	9,221,000
受取補助金等	200,000	130,000	0	0	330,000	0	0	330,000
受取負担金	15,296,000	500,000	0	0	15,796,000	0	0	15,796,000
受取寄付金	301,000	40,000	0	0	341,000	0	0	341,000
雑収益	280,000	0	0	1,000	281,000	0	0	281,000
経常収益計	23,653,000	2,315,000	0	11,027,000	36,995,000	1,268,685	7,756,315	46,020,000
（2）経常費用								
事業費	30,965,815	4,651,500	1,405,000	0	37,022,315	1,268,685	0	38,291,000
管理費	0	0	0	0	0	0	7,032,000	7,032,000
経常費用計	30,965,815	4,651,500	1,405,000	0	37,022,315	1,268,685	7,032,000	45,323,000
当期経常増減額	△ 7,312,815	△ 2,336,500	△ 1,405,000	11,027,000	△ 27,315	0	724,315	697,000
2．経常外増減の部								
（1）経常外収益								
経常外収益計	0	0	0	0	0	0	0	0
（2）経常外費用								
経常外費用計	0	0	0	0	0	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0	0	0	0	0	0
他会計振替額	9,082,815	2,336,500	1,405,000	△ 12,310,000	514,315	0	△ 514,315	0
当期一般正味財産増減額	1,770,000	0	0	△ 1,283,000	487,000	0	210,000	697,000
一般正味財産期首残高	0	0	0	42,468,983	42,468,983	0	0	42,468,983
一般正味財産期末残高	1,770,000	0	0	41,185,983	42,955,983	0	210,000	43,165,983
Ⅱ　指定正味財産増減の部								
一般指定財産への振替額	△ 10,000	0	0	0	△ 10,000	0	0	△ 10,000
当期指定正味財産増減額	△ 10,000	0	0	0	△ 10,000	0	0	△ 10,000
指定正味財産期首残高	70,000	0	0	0	70,000	0	0	70,000
指定正味財産期末残高	60,000	0	0	0	60,000	0	0	60,000
Ⅲ　正味財産期末残高	1,830,000	0	0	41,185,983	43,015,983	0	210,000	43,225,983

公益目的事業会計事業費（A）	〔全体〕経常費用計（B）	公益目的事業比率（A/B）
37,022,315	45,323,000	82%

賛助を力に 愚直に精進

当協会は昨年、創立60周年の節目を越えて、令和7年度に新たな始まりの年を迎えます。歩みを振り返れば、山あり谷あり。必ずしも平坦な道ばかりではなく、東日本大震災や新型コロナ禍といった未曽有の危機に遭遇することもありました。試練に立ち向かい乗り越える力になったのは、創立の理念に掲げた「宮城の芸術文化の振興発展に寄与する」との燃えるような志とともに、賛助会員の皆さまのお支えであり、ここにご芳名を紹介しつつ改めて心よりの感謝を申し上げます。皆さまから頂戴した長年のご厚志にお応えするため、会員一同、さらなる精進を誓い、古里の芸術文化の向上に尽くしてまいる所存でございます。少子高齢化や人口減少の加速が地域社会のみならず、協会の未来にも影を落としておりますが、初心に立ち返り改革を恐れず、社会や文化等の成熟を新たな成長・発展の糧にせねばなりません。組織の維持、事業運営の難しさが増している折ではありますが、私たちは芸術文化が宮城の魅力と活力に深く関わることを誰よりも知っていると自負いたしております。自らに課した使命を全うすべく、粉骨砕身、愚直に努力を重ねてまいりますので、本年度も変わらぬご支援を、よろしくお願いいたします。

（吉田利弘理事長談）

賛助会員（予定を含む）の皆さま（50音順、敬称略）

◇団体

▽アサヒビール株式会社南東北支社▽アストモスエネルギー株式会社東北支店▽株式会社阿部和工務店▽株式会社イヤサカ仙台支店▽SMBC日興証券株式会社仙台支店▽ENEOS株式会社東北支店▽ENEOSグローブ株式会社東北支店▽ENEOSトレーディング株式会社▽有限会社大原飲食▽鹿島建設株式会社東北支店▽河北建設株式会社▽株式会社河北新報普及センター▽株式会社カメイファーマシー東北▽株式会社北日本銀行仙台支店▽北日本電材株式会社▽キリンビール株式会社流通営業本部▽クリエイトプランニング株式会社▽クリオン株式会社東北営業所▽コクヨ東北販売株式会社▽株式会社五葉商事▽株式会社斎テント▽株式会社佐浦▽株式会社サンエーテック▽有限会社三帰興産▽株式会社七十七銀行▽医療法人社団初心会杜のホスピタル・あおば▽株式会社清月記▽有限会社清泉▽全国共済農業協同組合連合会宮城県支部▽株式会社仙台銀行▽一般社団法人仙台市医師会▽株式会社仙台タクシー▽損害保険ジャパン株式会社仙台支店▽株式会社ダイフクプラスモア▽竹田公認会計士事務所▽株式会社タツノ東北支店▽株式会社ダンロップタイヤ▽株式会社電通東日本▽東京海上日動火災保険株式会社▽株式会社東北プリント▽同和興業株式会社▽株式会社遠山青葉印刷株式会社▽トキコシステムソリューションズ株式会社北日本支店▽TOPPAN株式会社東日本事業本部▽株式会社南北社▽日本航空株式会社東北支社▽ネッツトヨタ仙台株式会社▽株式会社バイタルネット▽株式会社橋本店▽ハリウコミュニケーションズ株式会社▽株式会社バンザイ仙台支店▽株式会社ビー・プロ▽株式会社深松組▽株式会社藤崎▽富士フイルムビジネスイノベーションジャパン株式会社宮城支社▽ふじや千舟▽ブリヂストンタイヤソリューションジャパン株式会社宮城地区本部▽株式会社マイナビ宮城支社▽有限会社松尾弦楽器▽魅知国定席花座株式会社BBI▽三井住友海上火災保険株式会社▽株式会社三井住友銀行東北法人営業部▽三井住友信託銀行株式会社仙台支店▽株式会社三菱UFJ銀行仙台支店▽三菱UFJ信託銀行株式会社仙台支店▽宮城トヨタ自動車株式会社▽宮城日産自動車株式会社▽杜の都信用金庫▽矢崎エナジーシステム株式会社▽株式会社ヤマハミュージックジャパン仙台店▽株式会社ユニグラフィック青葉画荘▽有限会社緑香園茶舗▽輪王寺

◇個人

▽青木正▽朝倉秀雄▽麻生靖子▽井ケ田製茶株式会社▽岩井純▽梅屋楽器店▽株式会社えかきや▽鹿野英生▽川上浩▽菊田潔▽ギャラリーSHUGEN 佐々木欧舟▽小室照枝▽齋藤裕子▽佐々木康晴▽佐藤進▽白鳥良一▽髙橋正衛▽千葉静夫▽千葉昭吾▽中国料理東龍門▽西井陽子▽西川玉林堂▽畑山みさ子▽原也寸志▽晩翠画廊▽松枝稔▽水野喜重子▽村松秀雄▽守山邦楽器▽有隣堂表具店▽よろづ園茶舗

杜の都、鮮やかに活写 定禅寺フォトコンテスト展

定禅寺フォトコンテスト展

第11回定禅寺フォトコンテスト展が令和6年12月16～22日、仙台市の東京エレクトロンホール宮城の5階展示場で開かれた。公益財団法人宮城県文化振興財団が主催し、当協会が共催の形で実施した初冬恒例の写真展。時期の重なる光のページェントとの「共演」が雰囲気を盛り上げた。

コンテスト展には139作品が寄せられ、入賞・入選の46点が展示された。定禅寺通は青葉まつり、定禅寺ジャズストリートフェスティバル、みちのくYOSAKOIまつり、SENDAI光のページェントと、四季折々にぎわう「お祭りロード」。ケヤキ並木も美しく、建造物として評価の高いせんだいメディアテークもあり、杜の都を象徴する観光・景観スポットとして広く知られる。

今回は、東北六県の祭りが仙台市に大集合し開かれた「東北絆まつり2024仙台」を題材にした作品も加わって、展示された写真は百花繚乱。創意工夫もあり、例年以上に定禅寺の魅力満載の展示会となった。

退会会員、今後は賛助会員に「卒業」後、側面から支援

一身上の都合等により、このほど当協会を退会した元会員の千葉静夫さん（宮城県美里町）と岩井純さん（仙台市）が、賛助会員に推薦、承認された。

千葉さんは写真部に、岩井さんは工芸部（陶芸）に長年所属し、創作活動を重ね、華々しい活躍で協会の評価を高めてきた。

今回、高齢等により退かれることになったが、協会の設立趣旨・目的に対する賛同の思いに揺らぎはなく、慣れ親しんだ組織からの「卒業」を機に、新たに賛助会員として財務を中心に事業、運営で支援する側に回る。

「持続可能な協会運営のための検討会議（刷新会議）」における方針決定を受けて、協会が退会を決断した会員に引き続き協力を要請。今回、呼び掛けに快く応じ支援の輪に加わってもらった。

ほかに、３月の令和６年度第５回理事会で承認された賛助会員は、有限会社大原飲食（仙台市）様、遠山青葉印刷株式会社（仙台市）様の２団体。賛助会員数は団体73、個人31の計104件となった。

伊藤氏、事務局長就任へ 業務に精通、大きな期待

事務局長代行の伊藤敏之氏が理事会の承認を経て局長に昇格する。発令は６月１日付。

伊藤氏は平成21年に正職員として採用され、主任、主幹、事務局長代行を歴任。既に理事会の決議を経ており、令和７年度途中ではあるが、総会の開催に合わせる形で、事務万般を取り仕切る局長に就任する。現局長の沼倉良郎氏は退任する。

伊藤氏は十数年ぶりに常勤の局長となる。内部昇格で豊かな実務経験があり、芸協業務を熟知している。人格、識見とも申し分なく、働き盛りの50代前半。まさに適任と言える。長年、芸協とともに歩み、気心の知れた安心感、信頼感がある上、芸術への理解は深く、組織への思いも熱く、転換期にある芸協の舞台回し、中心的な支え手として、培った力量を大いに発揮してくれるに違いない。

新部長

【書道部】千葉蒼玄

新副部長

【文芸部】小野寺みち子

新運営委員

【絵画部】岡崎義恵、數本冴英佳、菅井粂子、鈴木琢也、三浦頼子、山本政彰

【書道部】岸本清舟、佐藤無極、藤原紅雲

【洋楽部】太田ゆり子、門脇治、平川敬子

【茶道部】後木南惠、針生宗由、渡辺洸渓

令和７年度文学散歩 石巻・女川の詩情めぐり

本年度の文学散歩は昨年に続きマイクロバスでの日帰りの旅となる。会員、一般を問わず募集しており、多くの参加をお待ちしている。詳細は協会ホームページに掲載している。

研修・見学先：女川町内（架橋された出島、シーパルピア女川）、石巻専修大学（模擬授業受講）、慶長使節船ミュージアム「サン・ファン館」

期　日：10月９日（木）

参加費：9,500円

募集定員：21名（先着順）

申込先：宮城県芸術協会事務局

締　切：９月16日（火）

事務局日誌

会員の入賞・入選など

（事務局に連絡があったもの）

◇第11回日展

▽入選＝樋田隆、林惠美子

◇第108回二科展

▽会友推挙＝畑中良二▽入選＝小野寺さゆり、及川寿美子、丹野ゆき子、加藤元、堀野京子、大山カリーナ、中村たみ子

◇第86回河北美術展

〈日本画の部〉▽宮城県知事賞＝數本冴英佳▽東北福祉大学賞＝熊谷眞由美

〈洋画の部〉▽秋田県知事賞＝山口優子▽福島県知事賞＝鈴木三千彌▽仙台市教育委員会賞＝大友倫章▽一力次郎賞＝小野由貴子▽菅野康賞＝佐藤美栄子▽渋谷栄太郎賞＝小川和子▽東北電力賞＝千葉裕子▽山本壮一郎賞＝青沼美智子▽審査員奨励賞＝齋藤弘子

受贈書（　）は寄贈者

『宮城の現代詩2024』（宮城県詩人会）、『絵本　湾』（千田基嗣）

謹弔

文芸部（俳句）鎌形清司殿　11月6日

絵画部（洋画）三浦良己殿　11月13日

文芸部（俳句）佐藤綾泉殿　11月23日

書道部　藤野秀一殿　1月25日

華道部（草月流）榧森青悦殿　2月6日

文芸部（短歌）佐久間晟殿　3月7日

書道部　早坂孝惠殿　3月15日

文芸部（川柳）堀之内稔夫殿　4月16日

訂正　239号８面の新入会員紹介において、華道部流派の【池坊】を【小原流】とする誤りがありました。謹んで訂正申し上げます。

編集後記

春は出会いと別れ、変化の季節。転換期にある当協会も令和７年度途中の変則ながら、事務局体制が３名から２名に減員となる。まさに少数精鋭。職員はいずれも在籍を重ねて職務に精通しており、業務の遂行に大きな支障はあるまいが、繁忙期の対応等には工夫が要る。最たるものは、事業の企画立案と運営における各部の全面協力。取り巻く環境は年々厳しさを増し、総合力が試される局面だ。協会と会員が心を一つに共に汗をかき芸術家魂を発揮し使命を完遂。未来に希望の明かりを灯してくれることを確信している。（N）